福島国際研究教育機構の立地の検討経過及び確認・評価について

福島国際研究教育機構の施設及び仮事務所の立地検討経緯

1. 立地選定の考え方

- ※「福島国際研究教育機構基本構想」(令和4年3月29日復興推進会議決定)で方針を決定
- ○福島国際研究教育機構(以下「機構」という。)は、福島をはじめ東北の復興を実現するための夢や希望となるとともに、我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活の向上に貢献する、世界に冠たる「創造的復興の中核拠点」を目指し、福島復興再生特別措置法に基づく特別の法人として、令和5年4月に設立し、仮事務所で業務を開始予定。
- ○機構の立地及び仮事務所の立地については、避難指示が出ていた地域への立地を基本とし、 市町村の提案を踏まえて福島県が検討し、その意見を尊重して国が決定。
- ○機構の立地及び仮事務所の立地については、令和4年9月までの決定を目指して検討を進める。

2. 検討経過

令和4年3月29日 復興推進会議において「福島国際研究教育機構基本構想」を決定。

立地選定の考え方やスケジュールを提示。

4月8日 復興庁から福島県に対し、立地に関する県の意見について照会。

4月15日 福島県から関係市町村に対し、立地提案について照会。

5月10日 市町村による立地提案意向の表明。(本施設:9市町、仮事務所:8市町)

5月31日 市町村から福島県に対し、調査票提出。

6月~7月 福島県による現地調査及び市町村に対するヒアリング。

8月30日 福島県から復興庁に対し、立地に関する県の意見を回答。

9月1日 復興庁による現地調査及び福島県・浪江町に対するヒアリング。

9月8日 機構理事長予定者(復興庁参与)による現地視察。

9月9日 復興大臣・復興副大臣による現地視察・福島県知事からの意見聴取。

福島県が選定した本施設候補地の概況

本施設 候補地 JR浪江駅

※福島県による選定の詳細については、参考資料3を参照。

一候補地 航空写真 (浪江町提供資料を加工)

↓現況写真



福島県が選定した仮事務所候補物件の概況

※福島県による選定の詳細については、参考資料3を参照。



候補物件1

施 設 名:ふれあい福祉センター

i 所:浪江町大字権現堂字矢沢町6番1

階数:2階建て

構 造:木造(大断面集成材)

建築面積:1,404.72㎡ 延床面積:1,936.73㎡

※浪江町の社会福祉協議会が使用する部分を 除く約1,000㎡程度(共用部を含む)を 使用可能。



候補物件2

施 設 名:ふれあい交流センター

住 所:浪江町大字権現堂字矢沢町40番1

階数:平屋建て 構造:RC造

建築面積:1,622.17㎡ 延床面積:1,524.13㎡

※候補物件2についても一部使用可能

本施設候補地(浪汀町・川添地区)に関する確認・評価

基本構想(R4.3.29 復興推進会議決定)及び選定依頼通知(R4.4.8復本第707号)に基づく視点により評価。 (9月1日 現地調査及び県・浪江町ヒアリング 9月9日 復興大臣による現地視察及び福島県知事の意見聴取)

(確認・評価のポイント)

- ○十分な面積を有する平坦な一団の土地であり、上下水道等既存インフラの活用も支障がないなど、施設敷地として適している。
- ○自然災害リスクについて、合理的なリスク対策を講じることで、**安全性の確保が図られる**。
- 〇JR浪江駅から徒歩圏内にあり、国道6号・114号、常磐道ICにも近接し、研究者等の往来に不可欠な**交通利便性が高い**。
- ○浜通り地域や他の地域に所在する**研究施設との連携、未利用地を活用した実証フィールドの設置等においてアクセスの優位性**が見込まれ、また、町が計画する新たなまちづくりと併せて、福島イノベーション・コースト構想の更なる発展や、福島県全体、さらには日本全体への**波及効果を期待**できる。

項目		確認・評価内容
円滑な施設整備の観点	①法令による 制約	・非線引き都市計画(大部分が用途地域指定なし)のため支障なし。・高さ制限のかかる高圧線なし。・農業振興地域(農用地区域)であり、転用手続きが必要。
	②自然災害 リスク	・津波浸水、土砂災害の想定区域なし。 ・洪水については想定浸水深を踏まえ、嵩上や災害時の行動計画策定等の対策による安全性の確保が必要。
	③土地の形質	・10haの敷地に加え、追加敷地が十分に存在(14.5ha)。 ・一団の土地。追加敷地との間に公道・水路あり。 ・高低差は少なく、ほぼ平坦。
	④工事の円滑 な実施	・避難指示解除済み。 ・幅員5~6mの道路に隣接。 ・既存インフラ(上下水道、電気、ガス)は特段支障なし。 ・土壌汚染のおそれなし。埋蔵文化財包蔵地なし。
	⑤土地取得の しやすさ	・大部分が民有地であるが、地権者の合意を得るため町で 説明会を開催済み。既存建築物は少ない。農地は代替地 を検討。 ・地籍調査実施済み。

項目		確認・評価内容
周辺環境等に関する観点	⑥交通アクセス	・JR浪江駅から約500m、徒歩約7分。 ・国道6号、114号に近く、常磐道浪江ICから約4km。
	⑦生活環境	・現状、商業施設、教育施設、医療施設、介護施設、スポーツ施設等が開業。・今後、浪江駅周辺整備事業の中で大型商業施設等を誘致予定。
	8研究開発分野 における連携	・福島ロボットテストフィールド、福島水素エネルギー研究フィールド等の既存研究施設との距離が近い。・スマートコミュニティや水素を活用したまちづくり等に取組中。
	9イノベ構想の 推進	・宿泊施設が複数存在。駅周辺で交流施設等の整備を予定。・大学等の「復興知」を活用した人材育成基盤整備事業等、大学や地元企業等と連携した取組を実施中。
	⑩地元の受入 体制	・地元商工会等で機構に関する勉強会を開催。 ・駅周辺整備事業において集合住宅を整備予定。 ・移住定住相談窓口を設置し、移住者交流会等を開催。
	①広域的な地域デザイン	・特定復興再生拠点や一団地の復興再生拠点への国道 6 号、114号によるアクセス性に優れ、今後の復興事業への波及効果が期待される。 ・町の復興計画に掲げるゼロカーボンシティや浪江駅周辺整備のまちづくりと相乗効果が期待される。

仮事務所候補物件(浪江町・権現堂地区公有施設)の確認・評価

基本構想(R4.3.29 復興推進会議決定)及び選定依頼通知(R4.4.8復本第707号)に基づく視点により評価。 (9月1日 現地調査及び県・浪江町ヒアリング 9月9日 復興大臣による現地視察及び福島県知事の意見聴取)

(確認・評価のポイント)

- ○今年6月に浪江駅西側に整備された町営の貸し事務所であり、各種設備の状態、 耐震性等の面で特に優れている。
- ○JR浪江駅と近接し、本施設候補地に隣接するなど、**交通アクセスの面**で特に 優れている。
- 〇住民への説明や、近隣用地の活用等において、**地元の協力・支援**が十分見込める。

項目	確認・評価内容
①物件の適格性	・今年6月に浪江駅西側に整備された町営の貸し事務所であり、各種設備の 状態、耐震性等の面で特に優れている。 ・設立当初(R5.4)時点での必要な執務スペースは確保できる見込みである。
②交通アクセス	・JR浪江駅から500m弱。徒歩約5分。 ・国道6号、114号に近く、常磐道浪江ICから約4km。
③生活環境	・現状、商業施設、教育施設、医療施設、介護施設、スポーツ施設等が開業。・今後、浪江駅周辺整備事業の中で大型商業施設等を誘致予定。
④支援体制	・地元住民への説明など、機構の誘致に積極的に取り組んできている。 ・仮事務所と町役場は至近距離にあり、連絡協議が容易と見込まれる。

